

**研究テーマ：音読の声を大きくするための指導の工夫**

所属 高知商業高等学校

氏名 公文千賀子

RG SH2

**1 研究の背景**

新課程の情報システム科1年生(35名)で能力の高い生徒、第2希望で商業科から来た生徒が数名、2次募集で入ってきた生徒が数名いる。クラスの生徒の10名が生徒会に入っており、その生徒たちは積極的に発言して盛り上げてくれるが、逆に彼女たちだけが浮いてしまって他の生徒は盛り上がらないことが多いクラスである。例年、学年を追うごとに声が小さくなり3年になると全然コーラスリーディングをしないクラスも出てくるので、3年間クラス替えがないクラスで1年次から正しい発音で、みんなで声を合わせて音読する楽しさを教えたい。現在は新出単語の発音のとき、大事な発音記号、口の形、イントネーションや文の区切りなどを教えているが、集中して聞いている。英語が得意でない生徒も読む気が出て、楽しい雰囲気での授業にしたい。

**2 リサーチクエスト**

生徒が一定の時間内に、決められた英文(主に教科書)を、正しい発音で、大きな声で、詰まらずに読めるようにする。

**3 予備調査**

## 予備調査1 授業観察の結果

- 授業のアンケートから生徒たちはウォーミングアップの音楽を心待ちにしていることがわかる。今どんな音楽が若者に人気があるかを知ることは大切で、t.A.T.u や Avril Lavigne のものをという希望もあった。Beatles も結構人気がある。雰囲気づくりの点で音読とつながりがあると思う。
- 一斉音読は今のところ順調であるし、発音記号にも興味を示し、上手になりたいという意欲もあるので、今後も励ましていきたい。ペア音読は席がえがないといつも同じペアになるので工夫が必要である。時々時間(1分間)を決めて読む練習をさせると効果的である。
- 内容理解を先に行って、大体の意味をとらせ、単語、熟語の意味は後で行っているが、理解が早い生徒と遅い生徒がいる。

## 予備調査2 英語力を示すデータ

- 期末テストでの進行形の問題(6)(7)の配点は計18点。の練習問題も行ったにもかかわらず次のような結果であった。

15点以上・・・3名(最高16点1名)	5~9点・・・12名
10~14点・・・6名	0~4点・・・14名(0は2名)

しかし、(10)の自由英作文では正しい文を書いているものが多く、この差を疑問に感じた。

## 予備調査3 アンケート、授業評価の結果

- リーディングについてのアンケートは準備不足のため取ることができず、1学期を終えての全般的な感想に終わってしまった。
- 音楽を楽しみにしている生徒が多かった。

**4 仮説の設定**

仮説1 隣同士でペアを作り、教科書の決められた範囲を一定の時間内で読む練習をさせ、どこまで読めたかをお互いの表に記入させるとともに、実際にモデルリーディングさせる。

仮説2 テープを聞くととき、区切りに / をつけさせ、イントネーションに注意してペアで練習させる。

仮説3 点数化しやすいリーディングテスト用紙を作成し、評価に入れる。

## 5 計画の実践

[1]は担当の怠慢により表に記入させるまではできなかったが、時間を区切ることで集中し、声も大きくなってきた。ペアによっては馴れ合いになる傾向がでてきたので、違うペア（ローテーションさせて）で行った。

[2]は教師のモデルリーディングにより発音、イントネーションやリンキングなどの練習を行い、その後生徒同士がペアで行う。教師は生徒の間を回り、後で上手なペアを指名して読ませた。

[3]では定期考査は80%、その他を20%評価とし、20%の中にリーディングを取り入れた。中間考査では3点でしか評価できなかったが、期末考査では10点満点とした。また課題は教科書のテスト範囲の中から2箇所(A,Bのカード)を指定して、テストでは生徒にくじで選ばせ、自分の教科書は使わせないことにした。リーディングテスト用紙は1学期に使用したものを少し簡単にしたものを作成し、生徒に前もって観点や点数のつけ方を説明しておいた。

リーディングテスト用紙 \* ( ) には{正}で回数を書く

1. 止まった回数 ( )	0	1	2	3	
2. 読み間違い ( )	0	1	2	3	
3. スピード 残り[ ]秒	0	1	2	3	
4. 声の大きさ	0	1			合計

## 6 実践の結果

一定の時間内で行うことにより全体的には声は大きくなったが、1学期と比べ、真面目にやらない生徒も出てきて、ペアにならないところもあった。リーディングテストでは、普段は声も小さく自信なさそうな生徒も熱心に取り組んでいた。しかし、期末考査の中での<音読アンケート>では次のような結果がでた。 \* ( ) 内は2学期中間考査時

とても楽しい	楽しい	まあまあ	あまり楽しくない	いやだ	無回答
2 (5)	7 (9)	12 (15)	6 (5)	3 (1)	5 (0)

\* どんなにすればもっとやる気が起こるか。

- ・教科書を読んでもいいことにしてほしい。印をつけてるのは頑張ってる証拠。
- ・人によっては読みやすいところがあるので、自分のいいところを読んだほうが力になる。
- ・今のままでいい。 ・分からない ・どんなことをしてもやる気は起きない

## 7 結果の検証

楽しくない、嫌だ、無回答が増えていることからすると、大きな声で楽しく音読するための指導が結果としてはでていない。担当の研究不足に他ならない。ただ、リーディングテストを中間3点満点から期末10点にしたことで、3点のものは当然9点近くにかたまっているが、2点のものが10点(1名) 9点(4) 8・7点(各6)に、また1点のものも9・10点という高得点になっていることから目に見える形のテストは効果的であると思われる。また2学期後半に不登校気味な生徒も現れ、全体的に欠席、欠課も増えざわついてきたことからクラス全体の雰囲気も関係していると思われる。

## 8 成果と今後の課題

みんなで大きな声を出して読むのにはクラスがいかに解放されているかが関係していると思われる。また教科担当への信頼度も関わっている。10月末に本校の学習委員会が行った授業アンケートによりいかに生徒が自分の授業に不満をもっていたかが分かって愕然とした。半分以上の生徒が、要点がハッキリしない、説明がわかりにくい、聞き取りにくい、わかるようにまとめて欲しいなどという不満をもっていたからである。年齢差では片付けられない。今一度、授業そのものの見直しをしなくてはならないと痛感している。また、音読テストだけで終わるのではなく、音読によって何らかの力をつけなくてはならないとずっと考えてきた。音読しながら英文を覚えて書くという方法、生徒どうしがお互いに上達が目に見えて楽しくなる音読の方法やテストなども今後工夫していきたい。

